

会 報

◇奈良大学史学会総会

五月二十六日(土)、本学において、第十九回奈良大学史学会総会を行った。二〇〇〇年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで二〇〇一年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案されそれぞれ原案どおり承認された。

二〇〇一年度の役員は以下の通り。

▽会長 菅野 正

▽副会長 寺崎 保広

▽教員委員 青木 芳夫

(庶務・会計) 森田 憲司

(庶務・交換) 鎌田 道隆

(編集) 守山 記生

(監査) 藤井 学

▽学生委員

(代表) 鎌田 康治

(副代表) 坂本 昌隆

(総務局長) 河崎 雄介

(広報局長) 尾上由希子

(青垣祭企画実行局長) 花房 浩輔

(四回生委員) 飯塚 直紀 川田 祐介 城野 岳雄

竹岡 健次 中村 祐子 森 和徳 平畑 典之

堀之内寛郎

(三回生委員) 伊藤 大樹 上田 哲平 片山 泰宏

児島 寛 坂田陽一郎 鈴木 啓史 高橋 広光

長 奈保子 田口 直人 矢津 聡子 山本 勝

(二回生委員) 岡本 隆浩 北田真知子 木元 雅也

荻野江梨子 木下ちひろ 桐山まどか 河野 里香

小霜 浩司 窪田 敏之 志麻 清香 人見 麻生

松岡 圭佑

(一回生委員) 明石 英恵 桑木健太郎 清水 勇樹

鈴木 禎匡 谷野 純一 玉野 将史 林 三起

広瀬 茜 松井 勇治

◇特別講義

五月二十六日(土)、史学会総会に引き続き、特別講義

が行われた。講師・演題は以下の通り。

木村 至宏氏

(成安造形大学学長・大津市歴史博物館館長)

「野外調査と歴史学」

狭間 直樹氏 (京都大学名誉教授・文学博士)

「近代における日本にとっての中国

—「侵略」から「共生」へ—」

◇史学体験ツアー

史学会の行事として毎年恒例となつた史学体験ツアーは、本年度も総務局が中心になり企画され、六月十日(日)には、「新撰組ツアー」と題して行われ、京都における新撰組ゆかりの土地を散策した。本学科学学生の参加が多く、好評であった。ついで、十一月二十四日(土)には「今井町へ行こう」の企画が実施された。この企画ではボランティアの方にガイドをして頂き、有意義な一日を過ごすことができた。好評であった。これから先、体験ツアーをより活性化させていくためにも、これまで以上に内容の充実を図らなければならない。

◇「史学会会報」等の発行

奈良大学史学会の活動の普及を目的として、「史学会会報」を二ヶ月に一回発行し、史学会の企画案内、各地の史跡や祭事等を掲載した。また、本年度も一回生を対象に来年度以降の講読・ゼミを決定する上での参考資料として、各ゼミに所属する学生の執筆による「講読紹介」を発行した。

◇青垣祭

昨年度に引き続き、青垣祭(学園祭)に出展した。本年度は、「法隆寺」のテーマで展示発表を行った。会場では法隆寺をパネル・模型で紹介したうえ、拓本の体験コーナーなどを設置し、来場者に手で触れてもらう展示を試み、好評を得た。

また、これまでの法隆寺についての研究をまとめたレジュメを作成し、来場者に配布した。

この展示に、十一月二日(金)から十一月四日(日)までの三日間で延べ五百人の来場者に来ていただいた。

また、青垣大賞(学園祭において優秀な団体に贈られる)の編集企画部門で第三位をいただき、各方面から高い評価

を受けた。ご協力いただいた方々には深くお礼を申し上げる次第である。

◇会員動向

○青木芳夫氏（西洋近現代史担当）は、奈良大学研究助成により七月三十一日から八月二十一日までの間、パラグアイとペルーを調査旅行した。

○鎌田道隆氏（日本近世史担当）は、「近世京都の都市と民衆」（思文閣出版）の研究により、博士（文学）の学位を立命館大学から三月九日に授与された。

○文学部世界遺産コースの「世界遺産学概論Ⅱ」のテキストとして、奈良大学文学部世界遺産コース編「世界遺産と都市」（風媒社刊）が、六月二十五日に出版された。

史学科教員では、森田憲司、守山記生、北村麻子、寺崎保広、鎌田道隆の各氏が分担執筆した。

○明石岩雄氏（日本近現代・日中関係史担当）は、中国の沿海部都市及び内陸部都市の経済開発の実態把握のため八月六日から一週間、上海および成都の二都市の現地調査を行なった。

平成十二年度史学科卒業論文題目

【日本史】

紫微中台に関する一考察

居森 顕爾

古代の任官儀に関する一考察

太田いおり

—「上階官人歴史」等をめぐって—

藤原京家についての一研究

柏木 理芳

—水上川継事件から見た藤原浜成—

奈良時代における中宮

木村 祐子

—「続日本紀」を中心として—

不失常典考

小森智香子

藤原仲麻呂の政策とその意義

柴田芽求美

古代東国と三閩

曾田 洋子

京職についての考察

高垣 麻紀

国忌をめぐる諸問題

谷口 朋子

—延暦十年国忌省除を中心に—

孝謙天皇に関する一考察

益田 志乃

—孝謙天皇の立太子を中心として—

元正太上天皇に関する一考察

山中 美和

「続日本紀」と渤海

—その記載を中心に—

奈良時代における厭魅事件について

☆ ☆ ☆

永祿十年の大仏殿炎上について

—松水久秀を中心に—

文祿の役の歴史的意義

百姓申状と村落結合

—鎌倉後期大和国平野殿荘について—

赤松氏の台頭

—円心を中心に—

筒井順慶の台頭

—松水久秀との抗争—

大姫

—悲恋と入内問題を中心に—

観心の擾乱における足利尊氏の朝廷対策

—幕府権力における関係から—

三河一向一揆の歴史的考察

戦国時代九鬼氏の発展と飛躍について

—織田軍での嘉隆の活躍までを中心に—

松本 大輔

中世後期の出雲、三刀屋氏の盛衰について

錦織 真人

宇喜多家家中騒動について

西村 陽一

山根 善和

大阪冬の陣、夏の陣における戦闘分析

沼 和貴

上村 崇幸

—大阪冬の陣における豊臣・徳川両家の動向について—

梅川 幸嗣

三木合戦の歴史的意義

廣島 真治

大木祥太郎

—別所氏の滅亡を中心に—

福井 準

奥出 裕也

因島村上氏について

堀本 幸恵

前田氏の加賀入部と一向一揆

—賤ヶ岳戦を通し、金沢入城に至るまで—

前沢 淳子

木村 敏浩

戦国期・瀬戸内海西部の水軍について

松浦 暢久

隈本 香里

—能島村上氏の海上支配権についての考察—

耳塚 恒司

澤田 信博

—大名の国人領主支配について—

岩田 奈穂

杉本由布樹

—得宗専制政治への歩み—

杉山 友一

田岡 寛喜

平賀朝雅の乱について

青木 暢

天明年間における江戸の動向

—打ちこわしと米不足をめぐって—

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

近世における都市廃棄物をめぐる処理と利活用

石橋 尋志

近世中期以降における民衆の四国遍路について

柳原 陽一

近世篠山における出稼ぎについての史的考察 圓谷 大介

近世前期出雲地方における神仏分離について 吉田 貴俊

浅間山天明大噴火における災害と復興に関する史的考察

― 杵築大社を中心に ― 吉田美智子

江戸時代の海難事故における救助と事故処理 神崎 前

近世中期以降の国中地域における年中行事 石田 陽一

版暦の発展と生活のなかの暦 岸本 大輔

近世統一権力の形成期における政治都市伏見の構造と機能

近世中期以降における富山売薬業の発展と行商組織の役割

☆ ☆ ☆ 石田 陽一

元禄期における幕府の行政改革に関する考察 小南 淳

明治期の奈良における洋風建築の受容と展開 石塚友記子

― 大坂と堺の問題を中心に ― 佐渡山寛之

日露戦争と児玉源太郎 稲荷 辰典

江戸幕府の権力形成と朝廷との関係について 杉本健太郎

― 参謀本部および統帥権の独立 ― 大河内 護

江戸時代中期の東大寺大仏殿について 林 貴子

― 輪中地域の近代化と問題点 ― 木曾三川流域における土地利用について

『枚方宿役人日記』に見る枚方宿の構造と機能

明治・大正期の吉野川下流域における藍作の動向と農村生活

― 文政十三年のお陰参り・お陰踊りと枚方宿 ― 原田 朋彦

近代における炭鉱産業の展開 坂本 真吾

近世中期技術に関する考察 藤井 悠

― 日本軍の欧州派遣とシベリア出兵 ― 第一次大戦期日本の外交方針について

近世前期における長崎の開港と都市形成 松尾 光朝

明治中・後期の造林運動と吉野林業について 武田 修

国際企業ソニーの経営戦略 田近 清寛

田近 清寛

明治期における師範学校の役割と特徴

中西 哲志

元代の税制

齋藤 優介

日本の原子力政策決定過程

野田 季寿

—特に包銀制の成立した背景と人民の負担について—

幕末・明治期における長崎製鉄所の発展

樋口 和俊

後漢末・三国時代の朝廷における清流派官僚の位置

日本人移民に関する研究

松本 祐也

後漢末軍閥について
—涼州軍閥の董卓軍閥を中心に—

—鳥取県における近代移民の展開について—

武藤 周平

周王室の権力の変遷について

戸島 利明

日本の中国進出と民間航空事業

村上瑠美子

—西周初期における封建事情について—

大正末期から昭和十年代の子供達

村上海美子

宋代の胥吏について

中井 千智

—『少年倶楽部』から子供の戦中文化を考察する—

宋代の裁判と刑罰

西田恵里子

【東洋史】

碧霞元君について

愛甲 直宏

—王直と鉄砲を中心に—

—泰山碧霞元君信仰を中心に—

伊藤 美穂

北朝時代における民族問題と軍制

安田 道人

漢代の讖緯説について

伊藤 美穂

—北朝北魏の歴史を追いながら—

—災異から讖緯へ—

稲葉 雅子

九品官人法について

山根 猛

—九品官人法の創設を中心に—

稲葉 雅子

『元朝秘史』における狩獵と宗教

山本 清

—英国側の視点を加えた戦争史の比較・考察—

垣下 高継

後漢末軍閥について

吉田健太郎

—経済政策を中心として—

垣下 高継

—涼州軍閥の董卓軍閥を中心に—

東晋朝における北府軍の成立過程とその役割

神戸 雄祐

清初の思想統制について

鈴木 雅明

—

工原 一誠

☆ ☆ ☆

—

工原 一誠

☆ ☆ ☆

清朝末期における康有為の思想と行動

立部 文崇

古代エジプトにおけるアテン神の変遷について

―洋務運動と明治維新との比較から

甲斐 薫

失敗理由を見ていく―

現代中国における内発的發展論の展開

玉利 廣幸

スネフェル王のピラミッドについての一考察

河本 祐子

―農村社会から民主政治の実現へ向けて―

二十一条交渉とイギリスの関わりについて

原田 貴史

旧約聖書の中のモーセ

小寺 敏之

フイリピン華僑史に関する一考察

廣岡 和幸

―五書におけるモーセの姿―

朝鮮戦争に関する一考察

山口 昭雄

古代エジプトの王位継承権と女性支配者について

小林 理江

文化大革命の一考察

涌嶋 裕美

―ハトシエプスト女王の即位とその正当性を中心に―

武宇 健士

―紅衛兵運動を中心に―

「延安整風」について

西森竜太郎

古代エジプトの王権観

田中 佐幸

近代朝鮮にとっての自主と独立

文 彰浩

イスラエルにおける王国否定思想についての考察

中嶋 章人

―朝鮮開化派の政治思想とその実践―

『ガリア戦記』のなかのガリア

西川 浩平

古代スパルタの教育制度

西川 照代

―リユクトルゴス体制を中心に―

古バビロニアの階級社会

有ヶ谷絹代

神々のシンボリズム

二宮 猛

―ハムラビ法典を中心に―

オリエントに見る狍犬の起源

池本 学

―ディオニッソス信仰と表象―

共和政期ローマの宗教活動から見る古代ローマ人

―アッシリアのライオンが辿る路―

林 健太郎

【西洋史】

現代の孤独

福井 大介

テンブル騎士団の変遷

山形 和也

—その問題点をボリスに問う—

西欧中世における都市民の生活について

若狭 友明

アレクサンドロス三世を「大王」とならしめた

グレゴリウス改革

山本 宏文

ものは何か？

棟近 太郎

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

フランス絶対王政の形成

石川 育恵

ナチスと宣伝

綾 美菜子

ビザンツ帝国について

井上 大介

バルカン半島の民族問題

神田 徳紳

—一世紀、一二世紀を中心として—

—ユーゴスラヴィア建国における民族対立—

ノルマン征服について

岡田 芳崇

ユーゴスラビアの民族問題

黒岩 康祐

聖ヨハネ騎士団について

小澤 有加

—セルビアとクロアチアの対立を中心に—

スペイン王国の形成について

駒 外史樹

インカ帝国の道路網

酒井 勝巳

ハプスブルク家の宗教政策について

實川 智子

インカの政治・社会組織について

佐藤 恵

フランス革命の展開について

菅原 留美

—その独自性—

イタリアルネサンスについて

杉谷 里美

南アフリカにおける黒人意識運動

鈴木 喬

フランス革命の形成について

須田 貴之

—一九八〇年代の抵抗運動に与えたインパクト—

ドイツ農民戦争について

瀬井 宏憲

ロックの歴史

辻 亮

カルヴァンの宗教改革について

田代 俊介

ドイツ三月革命について

中尾 哲也

フランス革命の変遷について

長谷川真希

現代ペルーにおけるゲリラ運動

仲戸和加奈

西欧中世社会の形成

福尋 将則

—トウバク・アマル革命運動の闘争について—

ビザンツ帝国の形成

藤原英一郎

アステカ帝国繁栄の要因

長濱 史絵

イギリス社会保障制度について

長谷川 曜

戦後ドイツの歴史認識

福田由貴子

—歴史教科書改善のための活動を中心に—

雑誌

【**受贈雑誌及び図書**】
二〇〇〇年十一月
二〇〇一年一〇月

アメリカ禁酒法成立の過程

堀井 和幸

愛大史学（愛知大学文学部史学科） 第一〇号

—酒場をとりまく問題意識を中心に—

愛知大学総合郷土研究所紀要 第四六輯

変革と分裂のはじまり

吉本 三鈴

愛知大学文学論叢 第一二三、一二四輯

—六〇年代リベラリズムの遺産—

青森県史研究（青森県史編纂室） 第五号

エクアドルにおける石油開発の影響

米本 番

青山史学（青山大学文学史学研究室） 第一九号

平成十二年度大学院修士論文（史学関係）

アカデミア（南山大学） 人文社会科学篇七二号

近代岡山社会福祉史

阿部 紀子

アジア・アフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジア・

—岡山県済世顧問・委員制度の動向と過程—

アフリカ言語文化研究所） 第六〇、六一号

九条道家とその執政

小川三千子

アジアフォーラム（大阪経済法科大学アジア研究所） 第
二一、二二号

—院評定制度成立過程の成立—

AZUR（成城大学フランス語フランス文化研究会） 第
二号

山城国一揆前後における近隣諸国の動きについて

多田 望

岩手史学研究（岩手史学会） 第八四号

宇多天皇を通して見た平安期太上天皇

竹田 紀衣

エウローパー（成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化

『続日本紀』の編纂と史料について

西本 英夫

専攻） 第一〇号

近世初期幕政における中坊秀政の大和支配

八木 健

鴨台史学（大正大学史学会） 創刊号

大分県立歴史博物館研究紀要 第二号
 大分県立歴史博物館年報 一九九九
 大阪市立大学東洋史論叢 第一一〇号
 大谷大学史学論究（大谷大学文学部史学科） 第五一七号
 海南史学（高知海南史学会） 第三九号
 学習院大学史料館紀要 第一一〇号
 漢学研究通訊（漢学研究中心） 第七六―七九期
 紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会） 第二〇号
 岐阜史学（岐阜史学会） 第九七、九八号
 京都市歴史資料館紀要 第一六一―一八号
 キリスト教史学（キリスト教史学会） 第五五集
 熊本史学（熊本史学会） 第七六、七七号
 ぐんま史料研究（群馬県立文書館） 第一五、一六号
 斎宮歴史博物館研究紀要 第一〇号
 堺研究（堺市立中央図書館） 第二八号
 史園（園田女子大学歴史民俗学会） 第二輯
 史苑（立教大学史学会） 第六一卷第一、二号
 史学（三田史学会） 第七〇卷第二、三、四号
 史学研究集録（國學院大學大学院日本史専攻大学院会）
 史観（早稲田大学史学会） 第一四四、一四五冊

史聚（史聚会） 第三三三号
 史泉（関西大学史学・地理学会） 第九三、九四号
 史艸（日本女子大学史学研究会） 第四一〇号
 史窓（京都女子大学史学会） 第五八号
 史叢（日本大学史学会） 第六三三号
 四天王寺国際仏教大學紀要 平成二二年度
 史友（青山学院大学史学会） 第三三三号
 就実女子大学史学論集 第一五号
 秋大史学（秋田大学史学会） 第四七号
 上智史学（上智大学史学会） 第四五号
 昭和女子大学文化史研究 第五号
 史料館研究紀要 第三二二号
 資料館紀要（京都府立総合資料館） 第二九号
 史論（東京女子大学読史会） 第五四集
 信大史学（信大史学会） 第二五五号
 人文論集（静岡大学人文学部） 第五二号一冊
 スペイン史研究（スペイン史学会） 第一四号
 住友史料館報 第三三二号
 西洋史学報（広島西洋史学会） 第二八号
 西洋史論集（北海道大学文学部西洋史研究室） 第四号

西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第二二号
專修史学（専修大学歴史学会） 第三二二号
創価大学人文論集 第一三三号
双文（群馬県立文書館） 第一一八号
高円史学（高円史学会） 第一七号
橘史学（京都橘女子大学歴史文化学会） 第一五号
橘女子大学研究紀要 第二七号
近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第一二号
千葉史学（千葉歴史学会） 第三七、三八号
中央史学（中央史学会） 第二四号
中国水利史研究（中国水利史研究会） 第二八号
津田塾大学国際関係研究所報 第三五号
土浦市立博物館紀要 第一一号
敦賀論叢（敦賀短期大学紀要） 第一五号
帝京国際文化（帝京大学文学部国際文化学科） 第一四号
帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第一六号
帝塚山大学大学院人文科学研究所紀要 第二号
東海史学（東海大学史学会） 第三五号
東京大学日本史学研究室紀要 第五号
東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会） 第五六、五七号

東洋大学文学部紀要 第五四集 史学会篇第二六号
東洋文化研究（学習院大学東洋文化研究所） 第三号
栃木史学（國學院大學栃木短期大学史学会） 第一五号
長野県立歴史館研究紀要 第七号
七隈史学（七隈史学会） 第二号
奈良学研究（帝塚山短期大学奈良学会） 第四号
奈良県立民俗博物館研究紀要 第一八号
寧楽史苑（奈良女子大学史学会） 第四六号
奈良歴史研究（奈良歴史研究会） 第五四、五五号
鳴門史学（鳴門史学会） 第一四集
新潟県立歴史博物館研究紀要 第二号
二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第一五集
二松学舎大学東洋学研究所集刊 第三一集
二松学舎大学論集 第四四号
新潟県立文書館研究紀要 第八号
新潟史学（新潟史学会） 第四五、四六号
日本学研究（金沢工業大学日本学研究所） 第四号
日本研究（国際日本文化研究センター） 第二一—二三集
日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）
第三二号

日本常民文化研究（成城大学大学院文学研究科） 第二二
輯

日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会） 第三
三号

日本モンゴル学会紀要 第三二一号

日本歴史研究（日本史学会） 第二二輯

年報中世史研究（中世史研究会） 第二六号

年報日本史叢（筑波大学歴史人類学系） 二〇〇〇

白山史学（東洋大学白山史学会） 第三七号

博物館学芸員課程年報（愛知大学） 第六号

東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所） 第二九
—三二二号

兵庫教育大学研究紀要 第二一卷

兵庫のしおり（兵庫県県政資料館） 第三号

弘前大学国史研究（弘前大学国史研究会） 第一〇九、一
一〇号

広島東洋史学報（広島東洋史学研究会） 第五号

福岡教育大学紀要 第五〇号第二分冊社会科編

仏教大学総合研究所紀要 第八号

文学部論集（仏教大学文学部） 第八五号

文研会紀要（愛知大学大学院文学研究科） 第二二号

法政史学（法政大学史学会） 第五四、五五号

法政史論（法政大学大学院日本史学会） 第二八号

北大史学（北京大学出版社） 第六号

北陸史学（北陸史学会） 第四九号

御影史学論集（御影史学研究会） 第二六号

三井文庫論叢 第三四号

南アジア・構造・変動・ネットワーク 第三卷第二、三号

宮城県多賀城跡調査研究所年報 二〇〇〇

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第三
三卷第六—一二号、第三四卷第一—六号

明代史研究（明代史研究会） 第二九号

山口県史研究（山口県県史編纂室） 第九号

横浜商大論集 第三四卷第二号

鷹陵史学（鷹陵史学会） 第二七号

米沢史学（米沢史学会） 第一六号

洛北史学（洛北史学会） 第三号

立教日本史論集（立教大学日本史研究会） 第八号

立正史学（立正大学史学会） 第八九号

龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第一一五、一一六号

歴史（東北史学会） 第九五、九六輯

歴史研究（愛知教育大学歴史学会） 第四七号

歴史研究（大阪教育大学歴史学研究室） 第三八号

歴史と地理 第五三八―四八号

和菓子（虎屋文庫） 第八号

図書

愛らしい雛のお道具とお菓子展（虎屋文庫）

秋の味覚「栗づくし」展（虎屋文庫）

インドにおける小規模工業―優遇政策制度の概観（二階堂

有子）

インド・パンジャブ州における緑の革命と農地保有構造

の変容（杉本大三）

ええじゃないか（渡辺和敏）愛知大学総合郷土研究所ブツ

クレット一）

越境する南アジア系移民（南埜猛・関口真理・澤宗則編）

近江国堅田居初家文書 第一巻・船道仲間諸色留帳

お茶の七変化展（虎屋文庫）

小野市史 第一巻本編Ⅰ、第七巻 資料編Ⅳ

郷土中国（費孝通著）鶴間和幸編訳、学習院大学東洋文化

研究所調査報告四九）

群馬県立文書館収蔵文書目録一九 北群馬・渋川地区諸家

文書一（群馬県立文書館）

群馬県行政文書件名目録 第一二集 大正期学務編Ⅱ（群

馬県立文書館）

ケーララ州ナーヤル・カーストにおける家族の変容（川野

美砂子著）

コロノ・カースト出身の三人の従姉妹（杉本浄著）

酒田市飛鳥・津国屋「御客船控帳」一（富山市日本海文化

研究所紀要 第一四号）

一九世紀インド女性の著作をどう読むか（吉村玲子）

「新興市場」におけるインフレ・ターゲティングの適用可

能性（佐藤隆広・久保彰宏）

政治文化の視点に基づく二一世紀における日韓共生の構図

（田中靖政代表、学習院大学東洋文化研究所調査報告五

〇）

西洋中世史セミナー講演報告集（佐藤彰一編、名古屋大学

大学院文学研究科西洋史研究室編）

多賀城閩連遺跡発掘調査報告書第一八冊 東山遺跡Ⅶ（宮

城県多賀城跡調査研究所）

多賀城関連遺跡発掘調査報告書第二六冊 桃生遺跡Ⅹ（宮城県多賀城跡調査研究所）

地域社会における第三セクター（愛知大学中部地方産業研究所研究報告第五四号）

帝京大学山梨文化財研究所二〇〇〇年度研究集会資料集

東寺領垂水庄―悪党の時代（吹田市立博物館）

豊橋市の中小企業経営者における税に関する意識調査（河合英樹著、愛知大学中部地方産業研究所）

長野県立歴史館収蔵文書目録四 中村家文書、野崎家旧蔵

文書、斎藤家文書

新潟県立歴史博物館常設展示図録

日・韓・中における社会意識の比較調査（仏教大学総合研究所紀要別冊）

日本からみた韓国 韓国からみた日本（平成十一年度山形県立米沢短期大学共同研究報告書）

はるかなる淀川―三川合流の歴史（大山崎町歴史資料館）

バンングラデシユのスーフィー教団の展開に関する予備的考察（外川昌彦）

ヒガンバナの履歴書（有園正一郎、愛知大学総合郷土研究所ブックレット二）

豊後国安岐郷二（大分県立歴史博物館 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報）

南アジアの家畜と環境（篠田隆・中里亜夫編）

南アジアの都市環境マネジメント（穂坂光彦、篠田隆編）

Britain's Grand Design for Southeast Asia: The Making of

Malaysia and the Embarrassments of Empire (A.J. Stockwell)

Development and Democracy in South Asia (Takako Hirose ed.)

Lessons from Poverty Reduction among Indian States: An

Empirical Re-examination (Koji Yamazaki)

South Asia in the 20th-century International Relations (Shigeru

Akira ed.)